



## 『 肺がんが疑われたら・・・どんな検査をするのですか? 』

呼吸器外科 梶原 直央

肺がん検診や八王子健診などで胸部 X 線写真に異常陰影を指摘された、あるいは咳や血痰が続くので「かかりつけの先生」に相談したら精密検査を勧められた等の理由で、肺がん(悪性の肺腫瘍)疑いのため当院に受診される方がおられます。そのような場合、一般的には以下の様な検査が行われ、肺がんなのか、もしくは他の病気なのか(例えば肺炎などの感染症や良性の肺腫瘍など)確定診断をつけて、その後の方針を決定していきます。

まずは【採血】で血液の腫瘍マーカーなどを測定します。代表的な肺がんのマーカーに CEA(主に腺癌に特異性が高い)、SCC・CYFRA(扁平上皮癌に特異性が高い)、NSE・pro-GRP(肺小細胞癌に特異性が高い)などがあります。更に【心電図や呼吸機能検査】などの生理学的検査を行い、画像検査に進みます。

【胸部 CT】 病気の場所と性状、隣接臓器との関係、肺門・縦隔リンパ節腫大の診断に有用とされています。これらの情報を元に、画像で肺がんが診断された場合は更に以下の精密検査に進むことになります。

【PET-CT(陽電子放射断層撮影)・頭部 MRI】 悪性腫瘍は他の臓器に転移する可能性があるため、他臓器での転移の有無を十分に検索する必要があります。肺がんの場合、遠隔転移の頻度が高い臓器は、肺・骨・脳・副腎・肝臓などです。PET はがん細胞が吸収しやすい物質(18F-FDG:フルオロデオキシグルコース)を投与し、その物質の代謝の違いに基づきがん細胞の分布や活動状態を画像化する診断技術です。頭部 MRI や PET-CT により肺がんの転移の有無を検索します。

### ～左肺腺癌～

写真 1 胸部 X 線



写真 2 胸部 CT スキャン



⇒裏面もご覧ください。